

TOKYO ホームページ



国立天文台教授

家 正則さん 60

大阪府吹田市

生まれは札幌市ですが、父の転勤や海外留学で引越を繰り返して、住んでいる家は22軒目。そんな私には、中学・高校時代の思春期を過ごした大阪府吹田市が、「研究」に目を向けさせてくれたふろさとです。高校3年生の時は、親が転勤で東京に引っ越したため一人、下宿暮らしをしました。学んだのは勉強だけではありません。参加した部活での英語劇では、冷や汗をかきながら舞台上に立ちました。狭い下宿でしたが、

「未知に迫る」土台培う



いまではそんな暮らしを懐かしく思い出します。中学時代の恩師が教えてくれたのは、理論を積み重ね、研究すれば未知の世界に迫ることができる数学の

おもしろさ。

大学では、理論だけでなく観測という実際の行動も必要な天文学にひかれて、その道を歩むことになりましたが、天文学に携わる上

での土台は、大阪で培ったと思っています。

天文学者として米ハワイ島の大型望遠鏡「すばる」(口径約8m)に構想時から参加し、観測史上最も遠く古い銀河を発見できました。今は、世界の研究者と口径30m級の望遠鏡を作ろうと、約1000億円を見込む資金集めに奔走する毎日、夢は、生命がある第2の地球の発見です。惑星から来る光の分析を続ければ、あと20年くらいで生命を育む海や酸素のある惑

星を見つけられるはず。

天文学では、最先端の研究に必要な膨大な投資を一つの国だけで負担する事は、もはや不可能。そんな現実を前に、まだ見ぬ宇宙人に思いをはせていると、地球人同士で傷つけ合う現状が残念でなりません。

吹田市にはたまにしか帰れません、今でも心のよりどころとなってくれる同級生や恩師と酌み交わす一杯は、私にとってやっぱり格別なものです。

(聞き手・松田晋一郎)

年齢とともにメール (tomin@yomuri.com) でお寄せ下さい。掲載分には薄謝をお送りします。